

## 5-9 環境にやさしいミニ水力発電※-1

小水力発電は、再生可能エネルギーの中でも発電効率が良く、ライフサイクル CO<sub>2</sub> 排出量が少ないという意味で、**クリーンな地産地消型エネルギー**です。

日本（特に長野県）は水資源に恵まれ、自然と調和する小水力発電の適地が多くあります。ここ、ダム町・大町市でも、それをいかそうと2003年に、ミニ水力発電を進める「くるくるエコプロジェクト」が、NPO 地域づくり工房により発足しました。

当初は国内初の市民事業によるミニ水力発電ということで、2つの大きな壁（技術的課題と制度的課題）にぶちあたりましたが、それを乗り越え、4つの違ったタイプの発電所を作ったことで注目を集めました。しかし、今はその中の2つのみが使われている状況です。

課題として、

- ① 許認可手続きが煩雑（近年簡素化されてはいるものの、水利権等多くの手続きが必要）
- ② 売電にはハードルが高い
- ③ メンテナンスが必要である などがあげられます。

また、太陽光と違って個人では設置は難しいので、地域で合意形成し、地域の活性化にもつながるよう進める必要があります。

気になる費用対効果はというと、出力 1kW あたり設備費がおよそ 100 万円かかると言われています。固定価格買取制度を利用しながら、制度終了後も見据えて、自立分散型再生可能エネルギーとして利用していく取り組みも各地で広がっております。

（例）群馬県中之条町など※-2



NPO 地域づくり工房では、視察も受け入れておりますので、ぜひ見学にお越しください。

2022 年度より、くるくる環境学習プロジェクト実行委員会が発足し、「学びと遊びの体験ツアー」の実施も開始しました。

### 問合せ先

● NPO 地域づくり工房 エコツアーHP

[http://npo.omachi.org/?page\\_id=10](http://npo.omachi.org/?page_id=10)



※-1：新工法の小水力発電の中でも出力が小さいという意味で「ミニ水力発電」とした（2003年 NPO 地域づくり工房）

※-2：参照 『再生可能エネルギーと環境問題』（傘木宏夫、自治体問題研究社、2021年）

【文責】太谷 優子